第７回精華町文化財保存活用地域計画作成協議会　議事録(摘録)

■開催日時　　令和８年１月２３日（金）午前１０時００分～１２時００分
■開催場所　　精華町役場５階　５０１・５０２会議室
■出 席 者　　・委　員：上杉和央委員（会長)、麻生美希委員（副会長)、
田中淳一郎委員、佐久間隆司委員、清水泰律委員、
麻生ひろみ委員、加田勝彦委員、松本雅和委員、石崎善久委員、
西川和裕委員、平井順委員、竹鼻毅委員、水谷直子委員
・事務局：川村智教育長、松井克浩教育部長、小笠原文紘生涯学習課長
山田憲史社会教育係担当係長、
金澤木綿主事、中川博勝古文書等調査員
■傍 聴 者　　０人
■次　　第　　１．開会
２．議事
（１）精華町文化財保存活用地域計画の文化庁長官認定について
①　文化庁長官認定の報告
②　計画本編・概要版の表紙選定
（２）「精華町の宝もの」展示
（３）精華町文化財保存活用地域計画完成シンポジウムについて
（４）次年度の計画関連事業について
３．その他
４．閉会

■議 事 録

１．　開　　会

○川村教育長から開会の挨拶。文化庁長官による計画認定の御礼。今回の答申により、全国１，７４１自治体中、２３６自治体が文化財保存活用地域計画を作成したことになる。京都府内では９市町目であり、早い事例である旨に触れる。

○上杉会長から、文化庁長官による計画認定の御礼と、今回の協議会の主旨は、計画の作成後、具体的にどう実際に計画を実施していくかの意見を募る旨に触れる。

２．　議　　事

（１）精華町文化財保存活用地域計画の文化庁長官認定について

○事務局（金澤）から、あらためて文化庁長官の認定に関して報告。

○事務局（金澤）から、計画本編・概要版の製本に関わり、表紙案２案を説明。

・各委員から意見を募り、事務局作成案に修正を加える形で表紙とすることで決定。

【各委員からの意見等】
（竹鼻委員）
丸を基調とした案１は柔らかな印象を受ける。また、まず写真やイラストが目に入る案１のほうが興味を引くのではないか。

（水谷委員）
丸を基調とした案１には、「信仰」「自然」など、各写真と京町セイカのアイコンの近くに歴史文化の名前が添えられていてわかりやすい。

（佐久間委員）
水谷委員の指摘と同様に、アイコンと写真の近くに文字があるとより良い。

（金澤主事）
案２で四角を基調としたのは、概要版の本文を作成する際にマンガのようなテイストを意識し、マンガのコマを意識した四角を配置したため。

（上杉会長）
案２は、パンフレットスタンドに配架した際に、文字が隠れにくいデザイン。その意味では配架した際に目立つ。

（清水委員）
本編冊子と概要版で別案を採用することはできないだろうか。概要版は四角を基調として文字が目立つ案２、本編冊子のほうは報告書のようで上品な印象を受ける案１はどうか。

（上杉会長）
本編冊子の表紙は丸を基調とした案１、概要版冊子の表紙は四角を基調とした案２で決定。概要版の案２に一部修正を加える。

（２）「精華町の宝もの」展示
〇会場内に「精華町の宝もの」を１４点展示。中川古文書等調査員による解説と共に見学。

（３）精華町文化財保存活用地域計画完成シンポジウムについて

〇事務局（金澤）から、精華町文化財保存活用地域計画完成シンポジウムについて説明

【各委員からの意見等】

（麻生ひろみ委員）

３ブースあるが、これはどのように分かれるのか。

（金澤主事）

申込時にどこのブースに入りたいか希望を聞き、１ターム目はその希望をもとに振り分ける。２ターム目はくじを予定している。

（４）次年度の計画関連事業について

〇事務局（金澤）から、次年度の計画関連事業について以下の３点を説明。

①「精華町の宝もの」出張展示について、３月開催のせいか 365 事業「お宝発見ウォーク」において、関連ブースを設置。常設展示のコーナーがない分、短期の出張という形にはなるが、「精華町の宝もの」を展示する機会を増やしていきたい。

②特に日中は仕事等をしている現役世代を中心に、「精華町の宝もの」が意外と身近にあると知ってもらうためのデジタルクイズラリーを構想している。

③大学連携事業として、精華町を舞台にフィールドワークを行う授業を実施する方向で京都精華大学と協議をしている。

【各委員からの意見等】

（上杉会長）

１つの措置に対して１つの事業という形で実施するだけではなく、可能ならば１事業で２、３の措置を関連付けさせて実施していくと、計画として進めやすくなる。

（平井委員）

商工推進室として、観光や商工業の活性化の視点から取組をしていきたい。寺院や神社等、信仰に係る「精華町の宝もの」については、特に所有者側の意向を大切にしながら取り組みたい。

（上杉会長）

精華町には「この町といえばこれ」というようなものがはっきりとない状態。今回作った５つの歴史文化、１０の項目を育てていくと柱ができていく。どの部分にあたる事業なのかも意識していくといい。

（西川委員）
企画調整課として、情報発信やシティプロモーションに地域資源をどう活かしていくかを考えながら取り組んでいきたい。今回の計画は上手くキャラクターを使っているが、キャラクターのファンやクリエイターも多い。上手くグッズ等も展開していけるといい。

（田中委員）
無住の寺院や神社について、配信等で活用する場合は防犯・防災の面にも配慮が必要。また地域の語り部などを守っていく体制も必要。

３．そ の 他
〇上杉会長から、各委員に一言ずつ求める。
（田中委員）
山城郷土資料館、精華町史編さんと、40 年を超える精華町とのかかわりの中で、古老と呼ばれる人や、郷土史家の減少を感じる。精華町だけの問題ではない。若年層や、他の地区から移住してきた人たちが精華町の歴史に興味を持ち、歴史を語る人が育つような計画になると良い。

（佐久間委員）
まさに退職してから地域の人びとと関わり、歴史等を伝える活動を文化財愛護会、ふるさと案内人の会として行ってきた。現在は特に街道についてまとめて紹介する機会を考えている。

（清水委員）
取り組んでいるふるさと案内人の活動の中でも、若い人びとへのアプローチがとても弱い。参加者が少なくなっている。活動の中で一番楽しいのは下見であり、下見の中で年配の人と話をするのが楽しい。この間も、大きな古民家の長屋門に籠が吊ってあり、その話を聞いたりもした。そのようなことを、今後どう伝えていけばいいか考えている。

（麻生ひろみ委員）
せいかグローバルネットの会長として、外国人の多文化共生や国際交流などの観点から意見をいう役割として参加した。文化財について、何か古いものというイメージがあり、精華町に引っ越してきた側の立場として色々なことを知ることが出来てよかった。それを外国人に届けていくということを考えるならば、広報誌「いちご」などにも掲載するのがよいのではないか。グローバルネットも、学びに来る外国人はいるが、活動に加わっている外国人は実は少ない。
　イベント等も、オンライン参加等含め、柔軟な参加形態が選べると良いのではないかと思

った。

（石崎委員）
京都府内２７市町村の中で９番目と早い方の認定となった。学研都市の文化財など、新しいものも組み込んでいるところは他の市町村とは違う特色になる、国の補助事業も、たとえば協議会や実行委員会などが受け手とできるので、様々な人とタッグを組みながら進めていってほしい。スモールスタートで進めていくのはいいアイデアである。

（加田委員）
　協議会の会長が１年ごとに変わるため、関わったのはこの１年だけであるが、経過を見て短期間のうちにとても立派なものができたと感心している。計画に掲載されている内容を見ながら、訪れてみたり、今後交流する人びとに、こんな良いところであると広めていくことでも協力できればと思っている。

（松本委員）
　同様に、今年から参加した。個人の感想になるが、先ほど「精華町の宝もの」展示で説明を聞いていて、古いものだということはわかるが、それは本当に大事なものなのかがぴんとこない。４世紀であるという説明や、「古事記」、「卑弥呼」なども、言葉は知っていてもぴんと来ないこともある。もっと身近なものに引き付けて説明があればよい。たとえば「聖徳太子の時代にも、こんな精度の高い土器ができてるのか」となると、共感が持て、愛着に繋がっていくのではないかと感じた。
（上杉会長）
とても重要な指摘である。文化財の専門職は、「これくらい知っているだろう」という前提の部分からボタンが掛け違っていることがある。あらためて見直すきっかけとなるといい。

（平井委員）
　今年度からの参加ではあるが、今年度の２回だけでも、業務に活かせるような気づきをたくさんいただける貴重な場だった。今後ぜひ計画を活用していけたらと考えている。

（西川委員）
　学研都市が組み込まれている点で、先を意識した計画となっていて、非常に特徴のあるものになっていると感じる。将来世代に引き継いでいくという部分も意識しながら考えていきたい。

（竹鼻委員）
　この町に引っ越してきた者だが、この計画を読むまで知らないことがたくさんあった。自

分でもお寺等を歩いてみて、初めて状況を知った。多くの町民は、そういう状態なのではないかと思う。もっと知りたいと思った人にも、本編が冊子として手元に配れればいいと感じた。できるだけ皆さんに精華町のことを知ってもらって、さらに皆さんが精華町を愛して、これからどういう風にやっていこうかと考えられるようになれればいいと思っている。

（水谷委員）
　今後の活用方法も聞かせてもらった。いい計画を作っただけに留まらず、それを広めて守っていく、また新しいものが出てきたら、それもつないでいく、という流れも聞かせてもらえて、良い時間を持たせてもらえた。大学との連携の話が出てきたが、大阪万博なども最初はキャラクターを見たとき奇抜なデザインに感じたが、様々なところとコラボレーションをすることによって爆発的に人気が出たように思う。精華町も同様の流れができると良いのかなと感じた。

（川村教育長）
文化財は、専門家の中でも非常に細分化された世界で支えられている、一方で、文化財と、町の方々、一般の方々をつないでいくことが乗り越えなければいけないポイントになる。常に、皆さんに興味を持てるようにというところをポイントをおいてやっていこうと思う。

（麻生美希副会長）
今回の意見や感想を聞かせていただいて、面白いと感じたのは、この会において文化財について話すというのは人について話すことだった。人がいなければ守っていけないし、輝かないというのは改めて認識した。
　博物館のキャプションを読んでもわからない。古いな、きれいだな、きらきらしているな、というようなところに留まってしまう。今日、「精華町の宝もの展示」の際に、中川古文書等調査員、金澤主事、石崎委員から、「ここが面白いんだよ」と伝えていただいたのは、まさに文化財とともに人が輝くということを感じるところだった。
　その時に、例えば棺の中に何を入れるのかという価値観や、精華町の名前の由来となった幣帛が未だに大事に受け継がれている意味だったりを、なんとなく知ることができたことは、私自身発見があった。自分事として何かを捉えていくときに、行政の中にとどめず、思い切ってオープンにして、アイデアを出すことが継続的にできたらいいのかなと感じた。

（上杉会長）
とても良いものが出来上がった。先ほど皆さんからいただいた意見を踏まえて、磨いていく。その意味で、月並みではあるがゴールではなくスタートである。

４．閉　　会

〇小笠原生涯学習課長から、計画完成の御礼と、今後の事業に関する助力を願う一言があり、閉会。